はじめに

我が国では、今後さらに、要介護高齢者の増加、社会的な介護力の低下、介護ニーズの多様化が進み、介護に関する課題の急増が予測されており、要介護者の自立や介護従事者の負担軽減が求められています。2013（平成25）年６月に「職場における腰痛予防対策指針」が19年ぶりに改定され、介護現場での腰痛の労災が多発していることから、介護事業者向けの対策を大幅に加え、人力による人の抱き上げを原則禁止しています。

介護負担の軽減や支援の効率化の視点から、福祉用具の積極的及び効果的な活用が求められています。それらの現状から福祉用具の利用とサービスの質の向上への期待が高まっています。中でも利用者の状況に応じた福祉用具の選定、適合が重要となっています。それを担うのが福祉用具専門相談員と介護支援専門員です。より専門的な対応については、2012（平成24）年４月より福祉用具専門相談員による「福祉用具サービスの計画」の作成が義務づけられました。

福祉用具サービス計画については、指定居宅サービス等の事業の人員、設備及び運営に関する基準によれば、「利用者の希望、心身の状況及びその置かれている環境を踏まえ指定福祉用具の貸与の目標、当該目標を達成するための具体的なサービス内容を記載したもの」となっています。また、「既に居宅サービス計画が作成されている場合は、当該居宅サービス計画の内容に沿って作成しなければならない」と記されています。これは介護支援専門員との連携を前提としており、ケアプランに沿った福祉用具サービス計画を作成することが義務づけられ、福祉用具専門相談員は、介護支援専門員と連携を図り、アセスメントや福祉用具サービス計画の作成を行うことになります。

アセスメントにおいては、利用者の希望、心身の状況及びその置かれている環境を確認し、生活上の課題解決に向けて福祉用具の情報収集と選択・プランニングを行います。その時の選択・プランニングを行う上での情報収集としては以下の通りです。

①　利用者本人の状況と家族の同意

福祉用具を選択するに当たっては、利用者本人の身体状況の把握や本人の意思の尊重を考えて、家族や同居者の同意を得ます。すなわち本人や家族の思い、使おうとしている目的と合っているかどうかを確認し、福祉用具の導入によって家族の生活の快適さが失われることのないように注意します。

②　使用条件と生活条件との整合性

使用する用具の具体的な特徴を踏まえ、利用者本人の身体機能だけ考えるのではなく生活をどのように組み立てていくのかを本人の能力と照らし合わせながら考えていきます。

その基本は、安全性の配慮が十分行き届いているかを確認して、適切な福祉用具を選択します。介護者についても、介護者の能力と福祉用具の使い方の整合性が大切です。また、住環境についても考慮が必要です。住宅改修を行うことで使いやすくなる福祉用具や既存の住宅に合わせた福祉用具もあります。

③　試用

福祉用具は使用する場所、利用者本人の生活環境に左右されます。自立支援の観点から日々の生活をしている環境の中で実際に試すことによって、適合が図られます。使い方を習熟してもらい福祉用具の効果と限界を知ってもらう必要があります。

④　社会資源と費用負担

地域の施設や人的資源についても調べておく必要があります。介護保険での貸与・購入などの負担と介護保険以外の場合についても調べておく必要があります。特に、地域の施設や人的資源についても同様です。

以上を踏まえて、福祉用具サービスを提供することで、利用者の日常生活に対する意欲が向上し、利用者の主体性が尊重されエンパワメントの向上に繋がることが期待されます。これらを通しての視点は、あくまでも自立支援であり自己決定の支援です。

福祉用具専門相談員は、①情報提供はわかりやすく　②利用者が望まないサービスへの確認　③介護保険以外の社会資源の可能性　などを専門的立場から助言を通していくことが福祉用具サービス計画をより実効性のあるものにしていくと思われます。

本書の内容は、介護保険の貸与・購入、高齢者の日常生活用具と障害者の補装具給付、日常生活用具の給付事業について説明することにします。とりわけ、介護保険制度における福祉用具の貸与の利用割合は、手すり、特殊寝台、車いす（付属品含む）の順に、全体の７割を占めていることもあり、３機種を中心として選定の基準となるような説明をしています。

本書に掲載されている製品の情報・写真は2023年３月時点のものです。
製品の詳細や最新情報は各社ホームページなどでご確認ください。

第2章 福祉用具

第1節 福祉用具貸与

1 車いす

1-1 車いす利用のための基礎知識

車いすについて

座位をとることは全身機能の活性化に繋がります。しかし場合によっては、ご本人に苦痛や床ずれ（褥瘡）をつくることもあります。特に座位可能な方に対して長時間の同じ姿勢は注意が必要です。

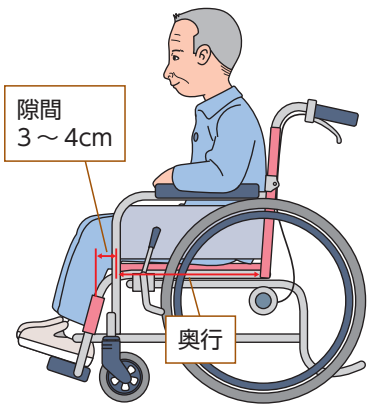
車いすを選ぶに当たっては基本姿勢に近い座位がとれるようにしたいものです。

（90度ルール…股関節90度、膝関節90度、足関節90度）

基本姿勢に近く、体圧が分散され、体幹が安定し筋緊張なくリラックスできる車いすが理想的です。

そのためには適切な大きさの車いすの提供が欠かせません。座面が左右に大きすぎたり、お尻がバックサポートに届かないと体幹が揺れて不安定になったりします。

高齢者の使用する車いすでは、身体寸法と車いすサイズの関係が重要になってきます。



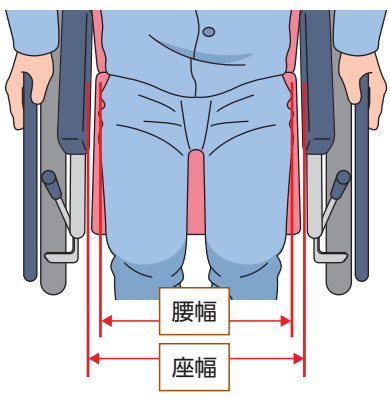
姿勢を考える

■ 座面の奥行

・シートの奥行が長すぎると骨盤が前方になり、背をバックサポートにもたせかけると骨盤が後傾、いわゆる「仙骨座り」になります。介助の際、座面の奥まで座らせるように心がけましょう。

・シート奥行が短すぎると膝が曲がった姿勢になり、体重を支える面積が小さくなり、疲れやすくなります。

・膝裏の隙間が３～４cmあると良いでしょう。

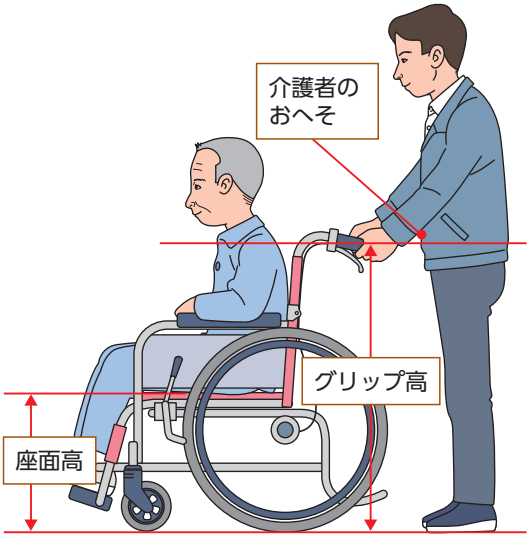


■ 座幅

・腰の両脇に手を入れてちょうど手が入る程度の余裕が一般的です。
・大きすぎると体幹が不安定になったり、手でハンドリムを回しにくくなったりします。
・座幅は腰幅より1.5cm程度ゆとりが欲しいです。

■ 座面の高さ

・移乗しやすさ、足での操作のしやすさ、座りやすさがポイントになります。
・座面が低いと、立ち上がりにくかったり、仙骨座りになりやすいので注意が必要です。
・座面の高さは、足をフットサポートに置いた状態で、床から膝裏までの高さより１～２cm低くした位が良いでしょう。



■ 押してグリップの高さ

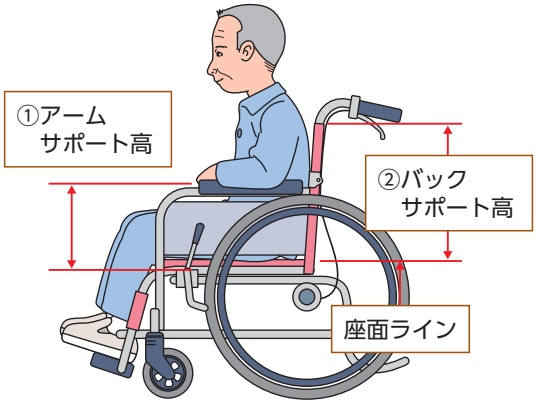
・一般的には介護者のおへそのあたりが良いでしょう。

■ アームサポートの高さ

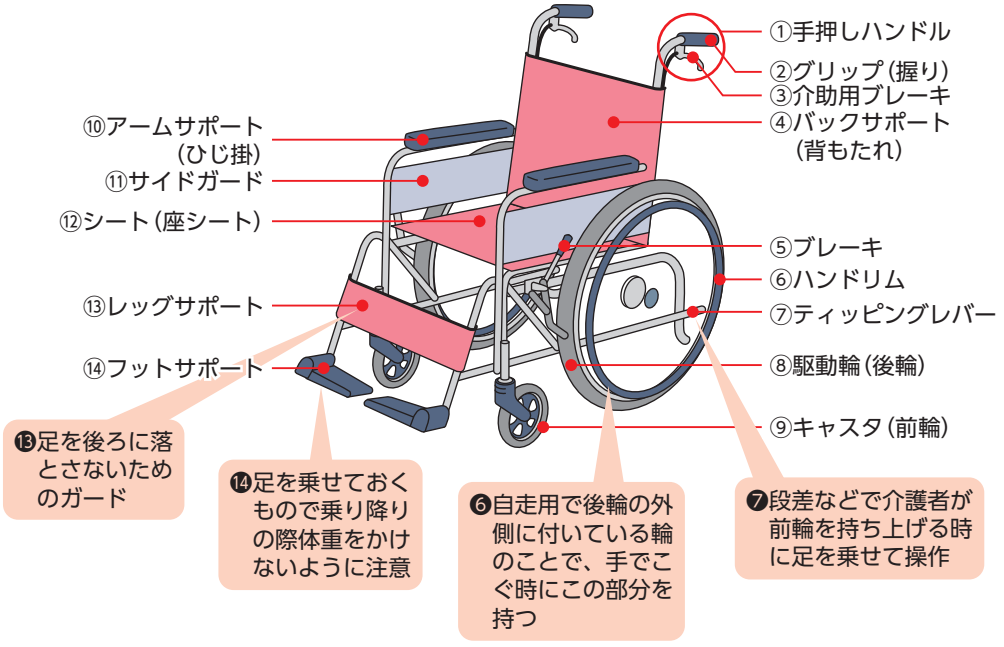
・腕を自然な状態で乗せた時の高さに合わせます。
・低すぎると、体幹保持能力が落ちてきた時、左右に傾きやすくなります。
・高すぎると、腕を乗せても肩が疲れます。
・座面から肘までの高さ＋クッションの厚さが必要になります。

■ バックサポート（背もたれ）の高さ

・背もたれの高さで、一般的には肩甲骨の下までを支えますが、体幹保持能力が低下した場合などには高くします。
・肩甲骨までカバーすると、肩関節の動きが制限され、こぎにくくなります。
・一般的には40～45cmになります。

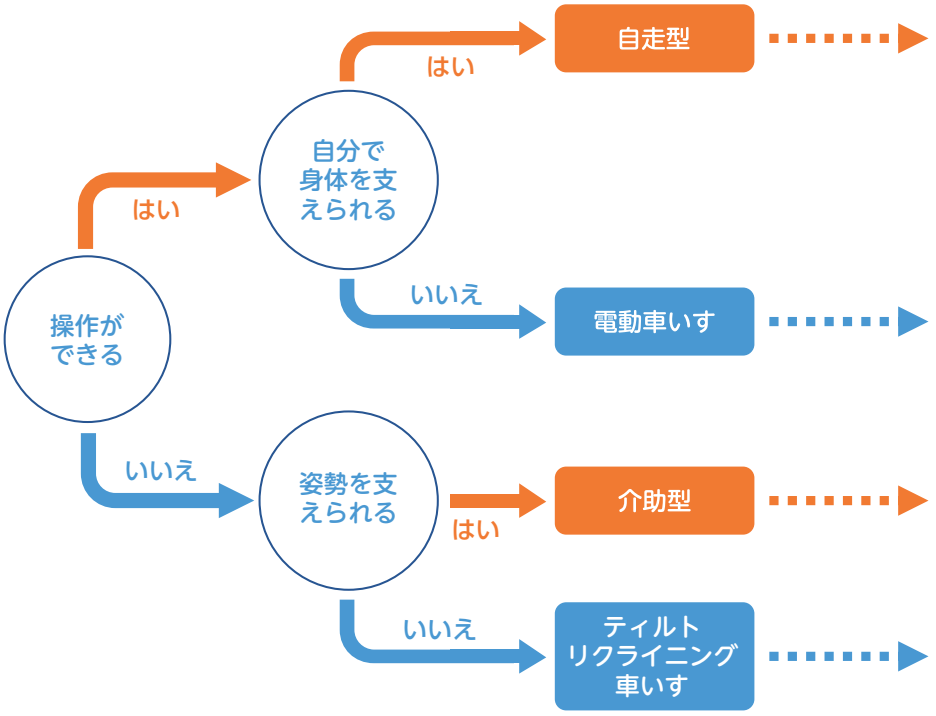


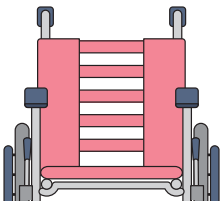
車いす各部の名称



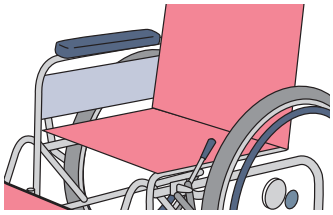
1-2 車いすの選び方のポイント

■車いすの選択フロー

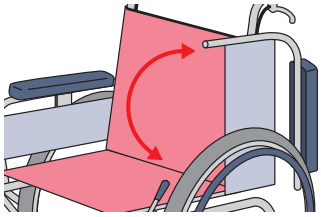




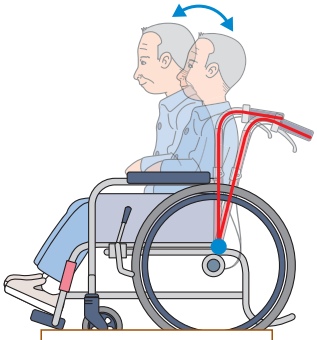
背張り調整



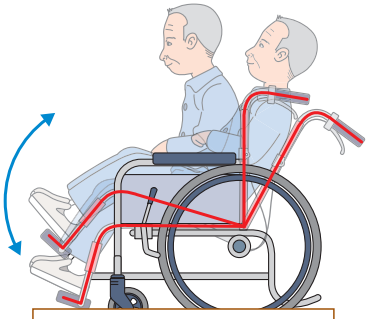
ひじ掛着脱



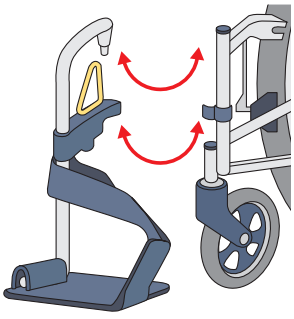
ひじ掛はね上げ



リクライニング機構
座面はそのままで背もたれ角度を変える



ティルト機構
背の角度が変わらないまま車いす全体が傾く



スイングアウト＆着脱

自走型

- ●手軽に簡単に移動できる車いす P.18
- ●座り心地の良い車いす P.19
- ●狭い場所を移動、小回りのできる車いす P.20
- ●身体にフィット、合わせられる車いす P.21
- ●座幅が広くゆったり座れる車いす P.22
- ●ブレーキのかけ忘れを防げる車いす P.23
- ●片手・片足で移動できる車いす P.24

電動車いす

- ●長距離の移動ができる車いす P.25
- ●坂道を軽く押して動かせる車いす P.26
- ●疲れにくく、安定した走行ができる車いす P.27
- ●快適性を兼ねたハンドルタイプの車いす P.28

介助型

- ●安楽に座り、乗り移りたい介助用の車いす P.29
- ●軽くてコンパクト・収納しやすい車いす P.30
- ●狭い場所に最適、小回りの利く車いす P.31

ティルト リクライニング 車いす

- ●安楽に座れる車いす P.32
- ●ゆったりと座ることができる車いす P.33

1-3 車いすの種類と特徴

自走型

ふわりす

種目	自走用標準型車いす
タイトル	**手軽に簡単に移動できる車いす**
性能特徴	・軽量 ・折りたたみ式 ・介助ブレーキ ・ノーパンクタイヤ （**ウェイビット**） （**NEO-1**）
コメント	・利用する人が車いすを操作 ・軽くて丈夫 ・車の積み込みにやさしい軽量タイプ（**ふわりす**） ・シンプルで使いやすい ・独自の曲線フレームを使用し、乗り心地最適（**ウェイビット**） ・前輪にクッション性に優れたキャスターを装備
対　象	・自走ができる人 ・立位移乗ができる人 ・座位での体幹保持ができる人 ・力の弱い人
商品名等	●**ふわりす** （カワムラサイクル） 重量：9.6kg ●**ウェイビット** （カワムラサイクル） 重量：12.2kg ●**NEO-1** （日進医療器） 重量：12.7kg ●**AR-201B** （松永製作所） 重量：15.2kg

自走型

ネクストコア・アジャスト

種目	自走用標準型車いす
タイトル	**座り心地の良い車いす**
性能特徴	・クッションキャスター ・ひじ掛はね上げ ・スイングアウト ・ひじ掛高調整 （**ネクストコア・アジャスト**） ・背張り調整 ・付属クッション ・ノーパンクタイヤ ・フットサポート前後＆角度調整 （**ネクストコア・アジャスト**）
コメント	・利用する人が車いすを操作 ・身体に合った座り心地 ・高性能で軽量 ・コンパクトで安全性がある ・より広い面で背中を支える（**グレイスコア・マルチ**） ・立体クッションで安定した座り心地
対　象	・自走ができる人 ・座位での体幹保持ができる人 ・時間が経つと姿勢が崩れる人
商品名等	●**ネクストコア・アジャスト** **NEXT-51B** （松永製作所） 重量：14.6kg ●**グレイスコア・アジャスト** **GRC-51B** （松永製作所） 重量：17.1kg ●**ネクストコア・マルチ** **NEXT-31B** （松永製作所） 重量：13.2kg